

新潟市子ども・子育て会議
平成30年度 第2回 幼保部会 会議速報

開催日時	平成30年5月31日（木）午後1時15分～午後3時30分
会場	新潟市役所分館6階 603会議室
出席委員	小池委員、斎藤委員、椎谷委員、志賀委員、長委員、平澤委員、正木委員、横尾委員（計8名）
事務局等出席者	こども未来部長、保育課長、同課長補佐、同課管理係長、同課管理係主事（1名）（計5名）
公開・非公開	非公開
議事概要	<p>○平成30年5月14日（月）に開催された第1回会議時に作成要望のあった資料について説明しました。資料1 資料2 資料3 資料4</p> <p>○市立保育園の適正配置の方向性について説明し、認識を共有しました。 資料6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園のあるべき状態 量の確保、質の確保、多様な保育サービスの充実、持続可能性 ・保育園の現状、あるべき状態とのギャップ 待機児童や定員割れの発生、施設の老朽化・狭隘化、保育士確保の難航、多様な保育ニーズへの対応が困難、厳しい財政状況、幼保無償化等の将来予測が困難 など <p>⇒<u>老朽化した市立保育園の統廃合等や、市立の役割明確化について検討していく。</u></p> <p>○市立保育園の役割について、意見交換を行いました。資料5 資料7 参考資料1 参考資料2</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家及び職場から近い園を選ぶ保護者が多く、公私立にこだわる人は少ないように感じる。 ・私立はその園の特色に合う合わないがあるが、公立はどの園も安心して預けることができる印象がある。 ・公立には、夜間や障がい児、病児保育や一時預かりなど、私立では経営面を考慮すると手が出づらいサービスを提供してほしい。 ・基幹保育園は重要だが、その役割や考え方が十分に浸透していないように感じる。検討には基幹保育園の定義や基準等が必要。

○老朽化した施設の対応等について説明した後、意見交換を行いました。

資料5 資料8 参考資料3

- ・公立保育園の適正配置については、子どもを安心安全に預けられることを第一に考えると、老朽化施設の対応が最優先となる。各施設の対応については、資料8の検討方針（案）を当てはめたうえ、各地域の状況を加味して具体を決定していきたい。

【主な意見】

- ・項目及び点数基準を設けるなどできないか。
- ・検討には人口推移などの将来予測データが必要。
- ・統廃合等により転園が必要な児童については、優先的に入園できるなど、安心して転園できる配慮が必要。